

「地域創生科」の取組

「胸を張って」社会に飛び立とう!!

山口県立周防大島高等学校 教諭 河村 尚樹

本校は、平成18年に設置されて以来、栄えある歴史を誇る安下庄高校と久賀高校の伝統と教育機能を継承する周防大島唯一の高校で、現在、地域創生科（ビジネスコース、福祉コース）・普通科（特別進学コース、普通コース、環境コース）の2学科5コースを設置しています。今回は、そのうちの全国に一つしかない地域創生科の生徒達の取組について紹介します。



商品開発メンバーと龍神乃里スタッフ

現在、地域創生科ビジネスコース（2・3年次生）と福祉コースの有志（3年次生）は、周防大島（立岩）にある合同会社龍神乃里とコラボし商品開発に励んでいます。

龍神乃里の経営者である村上雅昭様には、週に1度、仕事の合間に授業に参加していただいています。今回のコラボは、村上様から生徒達への「失敗してもいい。一生懸命やるのが大事」という言葉からスタートしました。商品開発を通してビジネスのノウハウを身に付けるのはもちろんですが、1番の目的は、生徒達が「壁にぶつかった時に這い上がる人材」「胸を張って社会に飛び立てる人材」の育成です。

今回の商品開発のコンセプトは、「地元の方にも観光客にも長く愛される塩飴づくり」にしました。

塩飴の商品化に向けて最初に取り組んだ活動は、塩について知ることです。塩職人の松田昌樹様から塩について学び、知識を高めました。この知識を活かし、周防大島に修学旅行に来た中学生に向けて実施した塩づくり体験で、中学生を指導しました。



村上様（龍神の里）による授業

次に、商品を売ることの難しさを知ることです。定期的に校内で販売実習や広島駅などのイベントに参加し、商品を販売しました。この経験の中で、商品を置いておくだけでは売れないことや、どのような人が何の商品に目を向けて購入しているのかを考えさせることができました。また、商品の配置の仕方、礼儀、立ち振る舞い、お客様の接し方などを身に付けさせることができました。

そして、働くことの厳しさについて考えさせました。週に1度は龍神乃里へ伺い、就業体験を行いました。内容は、塩窯で使用する薪の準備、窯の清掃、塩詰め、パッケージ貼りなどです。お客様の手に届く商品となるモノを扱っているため、事前にミーティングを行い、作業に入ります。作業で

は、①仕事を覚えるために、人の話をしっかりと聞き、他の従業員の姿を見ることが②どのようにしたらもっと上手に作業ができるだろうといった「問い」常に頭の中に置いて作業に取り組むこと③スピード④美しさの4つを意識させ、⑤1つだけの仕事をするのではなく、同時に2つ・3つ仕事ができるようになることを目指しています。

以上の基礎・基本の活動で学んだことや感じたことを常に念頭に置きながら、本題の塩飴の商品化に向けて取り組みました。

本題の商品開発に向けて、まず取り組んだ活動は市場調査です。市場調査では、広島駅や県内のスーパーなどへ行き、「どのような塩があるのか」「ど



販売実習の様子

のような人達が購入しているのか」を調査しました。

次に、市場調査やメンバーの意見をもとに生産者の候補や味について検討し、企画書の作成を行いました。その後、実際に生産業者に出向き、交渉し、味（フレーバー）の提供について協力をお願いしました。どの企業の方々も親切で丁寧に対応してくださりました。そして、塩飴の味の候補に挙がったものから、龍神乃鹽味・龍神乃里の蜂蜜味・美祢市の秋芳梨味・柳井市のいちご味・宇部市の小野茶味を商品化することに決定しました。味は、全てメイドイン山口にすることができました。

味が決定した後は、東京のデザイナーの方とデザイン会議を行いました。会議では、瀬戸内海の美しい海を表現するために、どのようなパッケージや商品名にしたらいいか話し合いを重ねました。様々な案が出ましたが、最終的な商品名を「瀬戸内のダイヤ」としました。パッケージについては生徒のイメージした通りにデザインを制作していただき、多くの案から一つに絞ることができました。



デザイナーさんとのデザイン会議



塩飴の試作品

商品の完成は2月頃です。販売場所は、山口県内の道の駅やホテル、岩国錦帯橋空港、錦帯橋周辺の土産物店、東京の西武渋谷店、広島駅などです。生徒達が一生懸命開発した商品が、地元の方にも観光客にも長く愛されることを願っています。店頭で並んでいた際には、手に取っていただけると幸いです。

この商品開発を通して、生徒だけでなく、私自身もプロの現場を間近で見て、感じることで、貴重な経験を心得て成長させていただきました。

最後に、龍神乃里の村上様には、無償でこの取組を引き受けていただきました。高校生に対して、情熱があり、時間をかけて生徒と向き合い、成長させてくれる人は数少ないと思います。また、この取組を支えてくださった龍神乃里の皆様や商品開発に関わってくださった皆様にも、感謝の気持ちでいっぱいです。厚く御礼申し上げます。これからも地域創生科は、「壁にぶつかった時に這い上がれる人材」「胸を張って社会に飛び立てる人材」の育成を目指して精進して参ります。

高校生の活躍

地域の伝統を継承 甲子園で、やましろ神楽を舞う

山口県立岩国高等学校坂上分校 教頭 西村 久典



「授業で、神楽をやったらええじゃろう。」昨年度の学校運営協議会でのこの一言がはじまりでした。

坂上分校は、昭和23年山口県立坂上高等学校としてスタートし、平成20年の学校の再編・統合により、山口県立岩国高等学校の分校となって今に至っています。分校訓「円成(えんじょう)」（笑顔絶やさず、協力して物事を最後まで成し遂げる）のもと、現在46名（うち28名が地元中学校出身）の生徒が、自然豊かなこの学び舎で、共に学んでいます。

令和4年度から高等学校に新学習指導要領が導入されることを受け、坂上分校でも新しい教育課程をつくることになりました。そこで課題として持ち上がったのが「総合的な探究の時間」をどのように活用するかです。坂上分校では、これまでの生徒各々の探究学習に加え、3年間を通して地域を学ぶ学習活動に取り組むという目標を設定しました。では、具体的に何に取り組むか？地域の方々に相談したその答え

が、「授業で、神楽をやったらええじゃろう。」だったので。旧美和町（平成18年岩国市と合併）には、石見神楽「出雲流の神楽」の流れをくみ、江戸時代から受け継がれている山代（やましろ）神楽があり、地域のお祭りには欠くことのできないものとなっています



す。地域の宝であるこの神楽を、学校の地域学習カリキュラムに組み入れ、生徒がその研究と伝承に取り組み、生徒自身が神楽を舞い、地域で上演することができれば、探究学習の目標を達成するだけでなく、地域に元気を与えることができるのではないかとということになりました。

神楽を生徒に伝承させるためには、指導者が不可欠です。そこで、その大役をお願いしたのは巻郷PTA会長です。巻郷会長は、山口県指定無形民俗文化財「山代白羽神楽」を伝承する山代白羽神楽団の代表も務めておられ、まさにうってつけの方です。このような経緯で坂上分校の神楽の授業がスタートしました。神楽の授業は、2年生の「総合的な探究の時間」で行われています。山代神楽の歴史についてレクチャーを受けた2年生11名は、衣装製作班と楽士(笛、太鼓、鉦の習得)班に分かれ授業に取り組みました。実際に神楽を舞う生徒は、2年生と神楽経験者2名を含む3年生の有志が名乗りをあげ、坂上分校神楽クラブを結成し、放課後を中心に練習に取り組みました。

このようにして神楽の授業が始まった5月のある日、大きなニュースが飛び込んできました。なんと坂上分校神楽クラブの「第12回高校生神楽甲子園ひろしま安芸高田」への出場が決まったのです。この大会は、神楽に取り組み高校生たちが一堂に会し、日々練習に取り組んでいる舞いを披露する



正に神楽界の甲子園で、今年度は全国から選抜された20校の出場が決定、その中に本校神楽クラブも選ばれたのです。決定以降、目の肥えた神楽ファンの前で恥ずかしい舞いはできないと、クラブの練習は日々熱を帯びました。授業では、楽士の生徒の楽器の練習と、本番で生徒が着る鬼の衣装の製作が急ピッチで進められました。神楽甲子園での演目は「三鬼」。ある目標を達成させようとする太夫と、その心の闇に隠れた欲望が争うという悪魔払いの舞で、目標達成途中、困難や苦悩により様々な誘惑に誘われ、一時的な快楽を求めてしまう気持ちを鬼に例え、太夫

はその欲望である鬼と格闘し、最後には打ち勝つことができる。その後は、より強い思いを持ち目標を叶えることができるという、人間の心の問答を神楽化したものです。

7月22日、広島県安芸高田市の神楽門前湯治村神楽ドームを会場に「第12回高校生神楽甲子園ひろしま安芸高田」が本番を迎えました。朝8時30分、生徒たちはバスで会場へ。会場へ着くと、すでに他校の演技が始まっており、神楽ドームも多くの神楽ファンの方々にいっぱいでした。緊張感の中、出演時間まで、楽士の生徒は直前まで演奏のリハーサルを、出演する生徒たちはステージでの立ち位置等の最終確認に余念がありません。

12時40分、いよいよ坂上分校神楽クラブの「三鬼」の上演が始まりました。静かな滑り出しでしたが、総勢7体の鬼が登場すると会場は割れんばかりの拍手に包まれました。後半は、太夫と大鬼がステージを降り、客席で観客を巻き込んでの大立ち回り。会場は、この日一番の盛り上がりを見せました。太夫、大鬼、小鬼、そして楽士の計11名が存分に練習の成果を発揮してくれ、神楽甲子園出演は大成功の内に幕を閉じました。

「授業で、神楽をやったらええじゃろう。」の一言から始まった神楽の授業ですが、巻郷PTA会長を中心にPTAと神楽団、地域の方々をも巻き込み、今や学校を代表する大きな取組となっています。この取組が、テレビで



放映されたこともあり、地域のみならず、県全体に知っていただくことにもなりました。神楽甲子園以降も、岩国民俗芸能まつり、錦帯橋創建350年記念錦帯橋芸術祭等から出演依頼をいただき「三鬼」を上演いたしました。そして現在、「総合的な探究の時間」の最終発表会での今年度最後の舞いを成功させるべく、引き続き神楽に取り組みんでいます。授業を通じて、生徒それぞれの中に地域の伝統や文化を絶やしてはいけないという気持ち、自分自身が中心となって地域を盛り上げていくという使命感が、確実に育っているとと思います。引き続きPTAや地域と協力し、この活動に取り組んで参ります。

全国制覇く輝ける一矢の誇り

山口県立南陽工業高等学校 弓道部顧問 若狭 裕二

令和五年度の全国高校総体（インターハイ）において、南陽工業高校弓道部が男子団体で優勝を果たしました。一昨年ぶり、二度目の全国制覇となります。

このような結果を得られたのも、皆様のサポートやご協力のおかげであり、選手自身が目標に真剣に向き合い、日々の積み重ねを大事にしてきた結果だと思えます。昨年度はインターハイ五位、選抜大会第二位とあと一歩というところでした。今年度は選手全員が三年生ということもあり高校生活総決算の試合に臨むということで、周囲からの期待やプレッシャーに葛藤しながらも目標達成に向けて真摯に取り組んでくれました。優勝に至るまでの日々の努力と根気、仲間たちの連帯感が、この栄光を彩りました。

数々の試練に立ち向かいながら、団結力と情熱を胸に刻み込みました。練習の日々は決して楽ではなく、時には挫折も味わいましたが、その中で培わ



れた信頼と絆が、最終的な成功につながりました。

弓道は日本の伝統的な武道であり、その深い意味と技術は日々の練習と研鑽を通じて磨かれています。また、単なるスポーツに留まらず、一射一射に心と技が交わり、芸術的な瞬間が生まれる競技です。選手たちが示した団結力と個々の向上心は、まさに模範となるものでした。日々の練習での一体感が競技の場でもそのまま発揮され、選手たちが個々の実力を高めつつも、全体としての強さを築いていった姿勢が



印象的でした。

試合当日、舞台裏では緊張と期待が入り交じる中、一射一射の瞬間には、選手たちの集中力が光り、見るものを引き込む魅力がありました。

優勝が決定し、笑顔の中、選手たちのこれまでの努力と犠牲が報われた瞬間を共有しました。これは彼らの栄誉であり、学校全体の栄光でもあります。また、あの舞台に立たせていただき、最高の舞台の景色を見せてもらい、その一翼を担えたことを誇りに思っています。そして、選手たちには感謝の気持ちでいっぱいです。弓道は技術だけでなく、心の成長をもたらす旅路であり、その旅路が彼らにとって豊かなもので

あることを信じています。

この勝利が学校コミュニティに勇気と感動をもたらし、未来の生徒たちにとっての原動力となることを願っています。

最後に、この優勝に至るまで支えてくださった保護者の皆様に深く感謝申し上げます。今は、新チームになり、新しい目標に向かって進んでいます。先輩たちが残してくれた想いと良い伝統を引き継ぎ、向上心と感謝の気持ちを忘れずに精進し、新たな挑戦に果敢に立ち向かって行きたいと思えます。皆様の温かいご支援に感謝し、これからも変わらぬご声援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年度「高校生熟議2023」開催



令和5年11月21日（火）熊毛北高校において開催された高校生熟議の様子について紹介します。5〜6名からなる全10グループ（グループ構成例…2学年の生徒4名、学校運営協議会委員1名、教員1名）に分かれ、「校則について」というテーマで、各グループの企画案作成に向けて熟議が行われました。総合司会者（代表生徒）による全体進行及び各班の議論を促進させる役割のファシリテーター（あらかじめ2回の研修に参加した生徒会役員）の

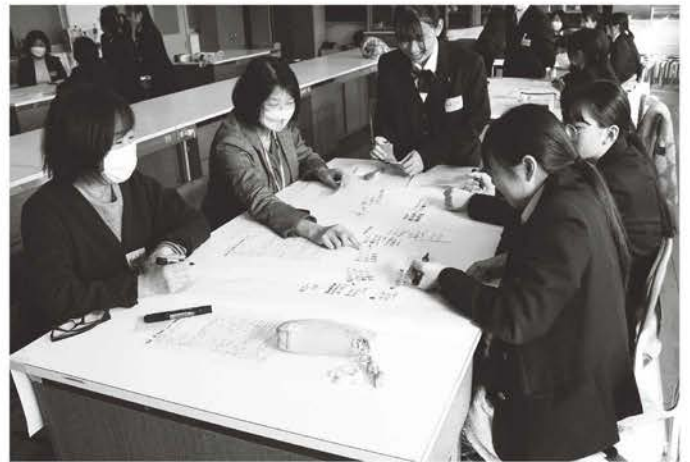
進行により、参加者全員が意見を出し合いました。

前半（第1ラウンド）「約25分」では、校則の現状や課題について意見を出し合い、後半（第2ラウンド）「約25分」では、課題等の解決のための具体的なアイデアを出し合いました。そして最後に、各グループの発表（各2〜3分）が行われ、「アルバイト・服装・頭髪」が行われ、「スマホに関する各規程の見直し」等についての提案や提案理由の説明がありました。

高校生目線や保護者・地域目線、教員目線で、参加者がそれぞれの思いを自由に述べ、共有し合いながら、現在の校則の課題に気づいたり、改善案を提案したりすることで実りの多い熟議となりました。後日、各グループが模造紙に作成した熟議のフロー図を生徒昇降口に掲示し、全校生徒・教職員で共有しました。

高P連の後援による「高校生熟議」は熊毛北高校では今回が2回目の取組です。高校生熟議は、山口県や地元地域、各学校における様々な課題について高校生の視点で主体的に考えることを通して、生徒たちのコミュニケーション能力を育み、主体的思考力や社会参画意識を高めるということを目的の一つとしている取組です。熊毛北高校では、昨年度の熟議での提案が、生徒総会を経て

実際の校則改定へつながったそうです。今後、さらに多くの学校において熟議が開催されま



令和5年度 小中高PTA・校長会 連絡協議会開催

この協議会は小・中・高の連携協力を図る趣旨から企画され、今年度は高P連が主管担当し、11月22日(水)に開催されました。

協議及び情報交換では「コロナ後のPTA活動の現状と課題」や「部活動の地域移行」「小中高連携の事例」等についての情報交換や意見交換を行いました。課題解決に向けた好事例を共有するとともに、改めて情報や意見を共有することの大切さを実感する会となりました。

今後もこの協議会が、小・中学校PTAおよび高校PTAの縦の連携強化を図り、学校・家庭・地域の連携、協働の取組をさらに充実・活性化させていくことにつながる機会となるよう取り組んでまいりたいと思います。



見舞金給付事業

- ☆ 傷病見舞金
 - 補償期間 4月1日～翌3月31日
 - 見舞金負担金
 - 全日制 300円
 - 定時制 150円
 - 被保険者
 - *生徒（日本スポーツ振興センターの決定に基づき給付）
 - 見舞金 (最高4万円)
 - 香料 3万円
 - *保護者（PTA活動中のみ）
 - 入院見舞金 最高3万円
 - 香料 3万円
- ☆ 障害見舞金10万円
- ☆ 死亡見舞金10万円